

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 28. 3. 9 第 190 回国会第 2 号

3 月 9 日（水）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 農林水産関係の基本施策に関する件

- ・ 森山農林水産大臣、高鳥内閣府副大臣、伊東農林水産副大臣、加藤農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

小 泉 進次郎君（自民）

- ・ これまでの農政に対する認識と今後の農政新時代において後押ししていく農業について農林水産大臣の見解を伺いたい。
- ・ 生産資材価格や流通構造に関する生産者の問題意識を踏まえ農林水産省としてどのように対応していくのか。
- ・ 我が国と韓国の米の生産費の違いはどのようなものか。

上 田 勇君（公明）

- ・ 東日本大震災の被災地における農林水産業の復旧・復興に向けた農林水産大臣の決意を伺いたい。
- ・ 福島県の農地・森林の除染について今後どのように取り組んでいくのか。
- ・ 今国会に提出予定の国家戦略特別区域法改正案における企業による農地取得の特例について農林水産省はどのように考えているのか。

佐々木 隆 博君（民維ク）

- ・ 米の生産数量目標の配分の見直し後に国が果たす役割はどのようなものか。
- ・ 環境保全型農業直接支払をなぜ地域政策として日本型直接支払に位置付けているのか。
- ・ 違法伐採対策に対する農林水産大臣の決意を伺いたい。

金 子 恵 美君（民維ク）

- ・ 東日本大震災の被災地における農林水産業者のニーズに対する農林水産大臣の認識を伺いたい。
- ・ 福島県産の農林水産物に係る風評被害対策に今後どのように取り組むのか。
- ・ 鳥獣被害防止総合対策交付金について都道府県からの要望に応えきれていない状況にあるが、鳥獣被害防止対策について今後どのように取り組むのか。

福 島 伸 享君（民維ク）

- ・ 攻めの農林水産業への転換を掲げている中、農林水産大臣はどのような政策を進めていきたいと考えているのか。
- ・ 農林水産物・食品の輸出拡大によって我が国の農業にどのような効果があることを期待しているのか。
- ・ 遊休農地に係る課税強化について、対象となる農地は優良農地ではないと考えられるが、農地の集積等に資するといえるのか。

升 田 世喜男君（民維ク）

- ・ ホタテガイ養殖の残渣（カゴ付着物）の処理に係る費用が養殖業者の経営を圧迫している問題についてどのように考えているのか。
- ・ 残渣の廃棄に係る規制を 4 月～7 月までの間だけでも緩和することはできないのか。
- ・ 農林水産物・食品の輸出拡大が農家所得の向上につながることを重要と考えるが、農林水産大臣の見解を伺いたい。

小 山 展 弘君（民維ク）

- ・ 兵庫県養父市における企業による農地取得の特例を全国展開し、農地法を改正することはあるのか。
- ・ お茶の国内外における需要拡大に向けて、平成 28 年度はどのような取組を考えているのか。
- ・ T P P 協定における市場アクセスについて、7 年後の再協議の規定は決着の先送りと考えるが、農林水産大臣の見解を伺いたい。

齊 藤 和 子君（共産）

- ・ T P P 協定による影響試算について、現在の試算を撤回し、対策を考慮しない試算として、やり直すべきではないか。
- ・ 政府備蓄米の運営を見直す中において、米の需給のバラ

ンス調整のために、備蓄米の買入れを行うことはあるのか。

- ・ 在日米国商工会議所の意見書における農協の共済事業に係る指摘について、農林水産大臣はどのように考えているのか。

畠山和也君（共産）

- ・ TPP協定のサイドレターも再協議の対象となるのか。
- ・ TPP協定の再協議の規定について、他国同士の規定はなく、我が国のみが5か国と設けている理由は何か。
- ・ TPP協定交渉の経緯について公表できないことは、衆参両院の農林水産委員会における環太平洋パートナー

シップ（TPP）協定交渉参加に関する決議に反するのではないか。

村岡敏英君（結集）

- ・ 農林水産大臣の所信表明における「農地の更なる大区画化」について、どの程度の規模を想定しているのか。
- ・ 県域を越えた農産物のブランドを作るために、農協間の連携を支援すべきではないか。
- ・ J A秋田中央会が公表したTPP協定による県内の農業への影響試算額について農林水産大臣はどのように考えているのか。